

研究協力をお願い

昭和医科大学では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

頭頸部がんの発がんリスク因子としての歯の慢性刺激に関する臨床的検討

1. 研究の対象および研究対象期間

2018 年 1 月 1 日から 2025 年 7 月 31 日に昭和医科大学病院頭頸部腫瘍センターを受診された頭頸部がん患者さん

2. 研究目的・方法

頭頸部がんは男性に多く、50 歳前後から発症する人が多いとされている悪性腫瘍です。頭頸部がんの原因としては、長期間の喫煙や過度の飲酒、慢性炎症、ヒトパピローマウイルス感染など、様々な異なる要因が関連しているとされています。しかし同じ頭頸部がんの括りの中でも、下咽頭がんや喉頭がんと比較すると、舌がんの患者さんでは女性の割合が比較的高く、喫煙歴や飲酒歴のない 20～30 歳代の方も珍しくありません。このような患者さんの発がんの機序は未だ定かではありませんが、歯の慢性的な刺激が関連している可能性が示唆されています。実臨床現場でも内側に傾斜した下顎臼歯の尖った部分が舌を刺激しているケースをしばしば経験します。歯の慢性刺激と口腔がん発がんとの関係についてこれまで少数の報告がありますが、明確な合意コンセンサスを得られるまでには至っていません。

本研究は、当施設における頭頸部がん患者さんの画像データを通して、舌がんの発癌に内側傾斜した歯の慢性刺激が関与していることを明らかにし、若年世代への舌がんの注意喚起を促し早期発見に寄与することを目的とします。当施設における頭頸部がん患者さんの様々な臨床情報と画像データを調査し、舌がん患者さんと他の頭頸部がん（咽頭がん、喉頭がん、歯肉がんなど）患者さんの間で歯牙の傾斜角度を比較し、どの部位の歯、あるいはどの程度の傾斜が舌がんのリスク因子となるかを解析します。

3. 研究期間

昭和医科大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから 2026 年 12 月 31 日まで

4. 研究に用いる試料・情報の種類

下記の臨床情報を電子カルテより取得します。

- ① 臨床所見(年齢、性別、既往疾患、喫煙歴、飲酒歴、生活背景、ECOG PS、ASA PS、原疾患の情報、臨床病期、身長、体重、BMI、握力、舌圧、摂食嚥下機能の情報、歯科所見、義歯・補綴物情報)
- ② 血液所見(血算、生化学、凝固系)
- ③ 画像所見(CT, MRI, PET, 喉頭ファイバー、単純撮影)
- ④ 病理組織学的所見(組織型、転移リンパ節所見)
- ⑤ 治療情報(治療経過、予後)

5. 外部への試料・情報の提供

該当いたしません。

6. 研究組織

研究責任者	昭和医科大学	頭頸部腫瘍センター	講師	森田 琢磨
研究分担者	昭和医科大学	頭頸部腫瘍センター	助教(歯科)	今野 瑤士
	昭和医科大学	頭頸部腫瘍センター	講師	齊藤 芳郎
	昭和医科大学	頭頸部腫瘍センター	助教	堅田 凌悟
	昭和医科大学	頭頸部腫瘍センター	教授	福島 啓文
	昭和医科大学	頭頸部腫瘍センター	教授/センター長	嶋根 俊和
研究協力者	昭和医科大学	歯学部 口腔外科学講座	顎顔面口腔外科学部門	
			教授	大場 誠悟

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和医科大学 頭頸部腫瘍センター

氏名：森田 琢磨

住所：東京都品川区旗の台 1-5-8

電話番号：03-3784-8561